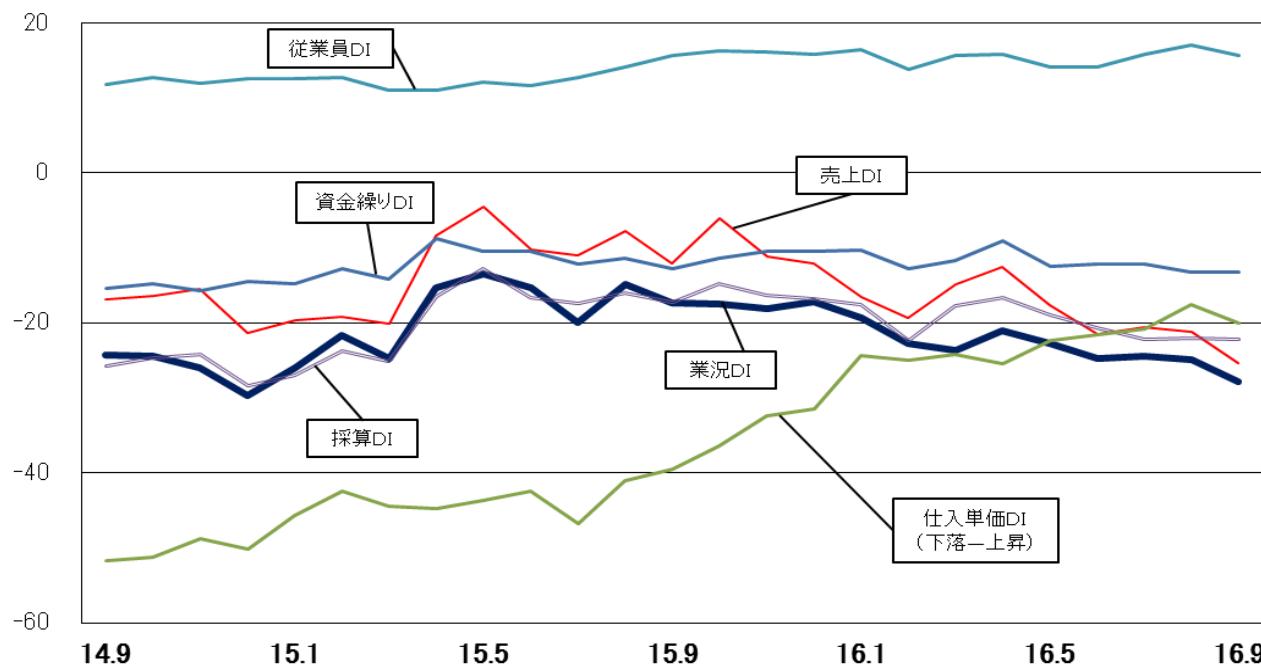


業況DIは、天候要因などもあり悪化。先行き持ち直し見込むも、慎重な見方

ポイント

- ▶ 9月の全産業合計の業況DIは、▲27.8と、前月から▲2.9ポイントの悪化。住宅など民間工事の持ち直しに加え、円高などにより原材料価格が下落する一方で、台風や豪雨の影響が大きく、食料品などの製造業や小売業、サービス業で広く業況の押し下げ要因となった。また、個人消費の鈍い動きのほか、慢性的な人手不足による受注機会の損失や人件費の上昇などが足かせとなり、中小企業の景況感は、足元で弱い動きがみられている。
- ▶ 先行きについては、先行き見通しDIが▲23.5(今月比+4.3ポイント)と改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。経済対策・補正予算による公共工事の増加、個人消費の喚起に期待する声が聞かれる。他方、人手不足の影響拡大、消費低迷や円高、海外経済減速の長期化を懸念する声は多く、中小企業においては、先行きへの慎重な見方が続いている。

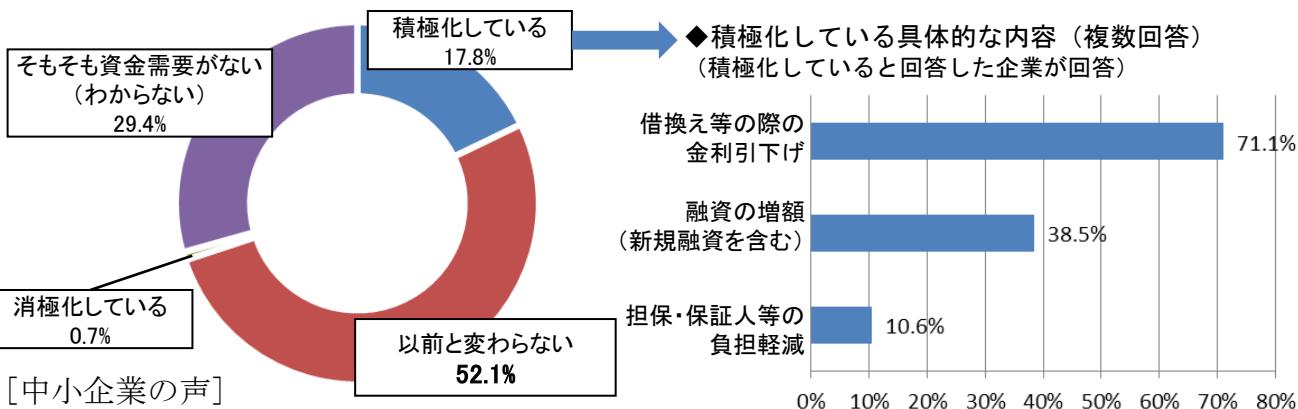
LOBO全産業合計の各DIの推移(2014年9月以降)



日銀のマイナス金利政策導入後の金融機関の貸出し姿勢

- ▶ 日銀のマイナス金利政策導入後における金融機関の貸出し姿勢は、「積極化している」と回答した企業は17.8%、「以前と変わらない」と回答した企業は52.1%
- ▶ 金融機関が貸出し姿勢を積極化している具体的内容は、「借換え等の際の金利引下げ」71.1%、「融資の増額(新規融資を含む)」38.5%

◆マイナス金利政策導入後の金融機関の貸出し姿勢



[中小企業の声]

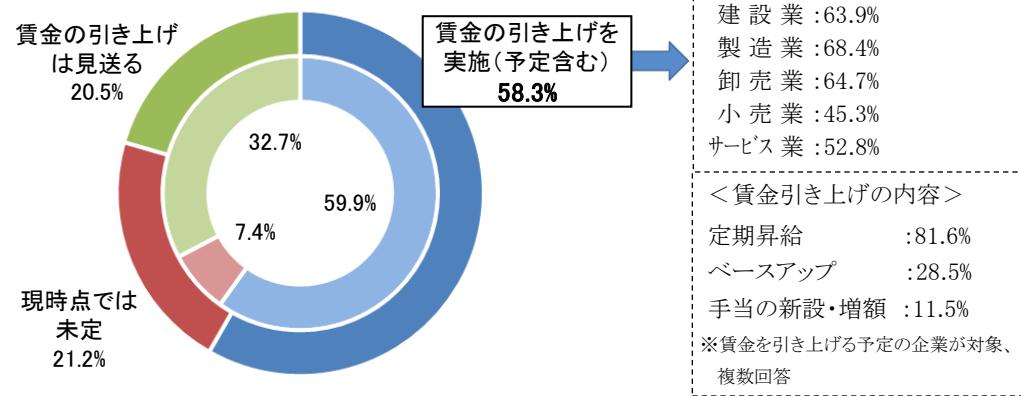
- ▶ マイナス金利政策で、銀行がアパート等の賃貸用住宅の不動産融資に積極的になっており、収益の改善が期待できる (五泉 総合建設業)
- ▶ 金融機関の融資条件は以前と変わらない。低金利等の好条件があれば、施設の老朽化も進んでいることから設備投資を検討したい (福山 旅館業)

2016年度の所定内賃金の動向

- ▶ 2016年度に賃金の引き上げを実施した企業(予定含む)(全産業)は58.3%と、2015年9月調査と比べ、減少。他方、「現時点では未定」は21.2%と13.8ポイント増加し、「見送る」は、20.5%と12.2ポイントの減少

◆2016年度の所定内賃金の動向(全産業)

※円グラフの外側が9月調査、内側は前年同月調査



[中小企業の声]

- ▶ 大幅な最低賃金の上昇に対応したことに伴い、正社員にも人材定着を目的に同程度のベースアップを実施する (鹿島 ビルメンテナンス業)
- ▶ 人材確保を目的に賃金を増額したいが、売上が思うように伸びないため、手当の増額など賃上げの方法を決めかねている (八千代 ゴム製品製造業)

# 商工会議所LOBO(早期景気観測)

— 2016年9月調査結果 —

JAPAN RESTART  
日本再出発

 日本商工会議所  
The Japan Chamber of Commerce and Industry  
2016年9月30日

## 業況DIは、天候要因などもあり悪化。先行き持ち直し見込むも、慎重な見方

### <結果のポイント>

- ◇9月の全産業合計の業況DIは、▲27.8と、前月から▲2.9ポイントの悪化。住宅など民間工事の持ち直しに加え、円高などにより原材料価格が下落する一方で、台風や豪雨の影響が大きく、食料品などの製造業や小売業、サービス業で広く業況の押し下げ要因となった。また、個人消費の鈍い動きのほか、慢性的な人手不足による受注機会の損失や人件費の上昇などが足かせとなり、中小企業の景況感は、足元で弱い動きがみられている。
- ◇業種別では、建設業は、地域によりばらつきがあるものの、公共工事に持ち直しの動きがみられたほか、好調な住宅投資に下支えされ、改善。製造業は、電子部品関連が上向きつつある一方で、工作機械関連の受注減や、原材料の値上がりを受けた食料品製造業が振るわず、悪化。人件費の上昇など人手不足の影響拡大を指摘する声もある。卸売業は、建設需要に牽引された建築材料関連が堅調に推移し、改善するものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり実体はほぼ横ばい。天候不順に伴う農水産物の品不足による売上減少を指摘する声も多い。小売業は、インバウンドを含む高額品販売や秋物衣料の苦戦、不要な支出を控える消費者の動きを指摘する声があり、悪化。ただし、「好転」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。サービス業は、悪化。天候不順の影響により客足が減少したほか、農水産物の仕入価格が上昇し、採算が悪化した飲食業や、旅行客のキャンセルが出た宿泊業が全体を押し下げた。前年のシルバーウィークに比べ休日数が少ないことによる売上減少を指摘する声もある。
- ◇先行きについては、先行き見通しDIが▲23.5（今月比+4.3ポイント）と改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。経済対策・補正予算による公共工事の増加、個人消費の喚起に期待する声が聞かれる。他方、人手不足の影響拡大、消費低迷や円高、海外経済減速の長期化を懸念する声は多く、中小企業においては、先行きへの慎重な見方が続いている。

### 調査要領

○調査期間 2016年9月14日～21日

○調査対象 全国の423商工会議所が2,985企業にヒアリング

(内訳) 建設業：457 製造業：715 卸売業：325 小売業：698 サービス業：790

○調査項目 今月の業況・売上・採算などについての状況および自社が直面する問題等

※DI値(景況判断指数)について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりの意味する。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)  
業況・採算：(好転) - (悪化)      売上：(増加) - (減少)

## ＜産業別の特徴的な動き＞

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、建設業、卸売業で改善、その他の3業種で悪化した。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

DI値の傾向(最近6カ月の傾向)    ↑ 改善傾向    ⇔ ほぼ横ばい    ↓ 悪化傾向

### 【建設業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇔	↓	↓	↓	↑	⇔

- ・「公共工事の前倒し執行が出始めたことに加え、民間による設備投資の案件も多く、業況は改善した」(一般工事業)
- ・「公共工事の単価が減少しているが、件数は増加しており、売上に変化はない。ただし、件数の増加に伴い、人手不足の影響が顕著となってきた」(管工事業)
- ・「住宅ローン金利の低下などにより住宅着工に動きがあり、売上、採算共に前年より好転している」(建築工事業)

### 【製造業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
↓	↓	⇔	↓	↑	↓

- ・「台風による水害の影響で北海道産の農産物価格が上昇している。また、必要な仕入れ量を確保できないことも問題」(食料品製造業)
- ・「売上が前年度の水準に回復していないにもかかわらず、最低賃金の引き上げと取引先からのコストダウン要請が重なり、重苦しい業況感を払拭できない」(電子応用装置製造業)

### 【卸売業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇔	↓	⇔	⇔	⇔	↓

- ・「円高が続いていることで仕入単価が下落し、採算は改善したが、取引先からの輸入品の値下げ要請が強まっていることが気がかり」(化学製品卸売業)
- ・「海水温の上昇などにより、イカやサンマの不漁が続き、売上は伸び悩んでいる。地元食材を活用した商品販売に力を入れ、乗り切りたい」(食料品卸売業)

### 【小売業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
↓	↓	⇔	⇔	⇔	↓

- ・「個人消費の低迷が顕著で、客は必要なものしか買わず、売上は悪化した。客のニーズに合わせた品揃えが必要だと痛感する」(百貨店)
- ・「9月前半の残暑が厳しかったこともあり、秋物衣料の動きが鈍く、売上は悪化した」(商店街)
- ・「インバウンドの客数は減少傾向にあるものの、肌の乾燥を防ぐ保湿関係商品を中心に売れ行きは良く、売上、採算とも改善している」(化粧品小売業)

### 【サービス業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇔	⇔	⇔	↓	⇔	⇔

- ・「マイナス金利政策の影響もあり、収益の悪化した銀行がシステムにかかる経費を減少させている。それに伴い、当社の売上も悪化した」(ソフトウェア業)
- ・「地元でイベントが多かったことに加え、地元プロ野球チームの優勝で客室の稼働率は高水準が続いた」(旅館業)
- ・「台風や天候不順の影響で魚や野菜の価格が軒並み高く、採算が悪化した」(レストラン)

### 【業況についての判断】

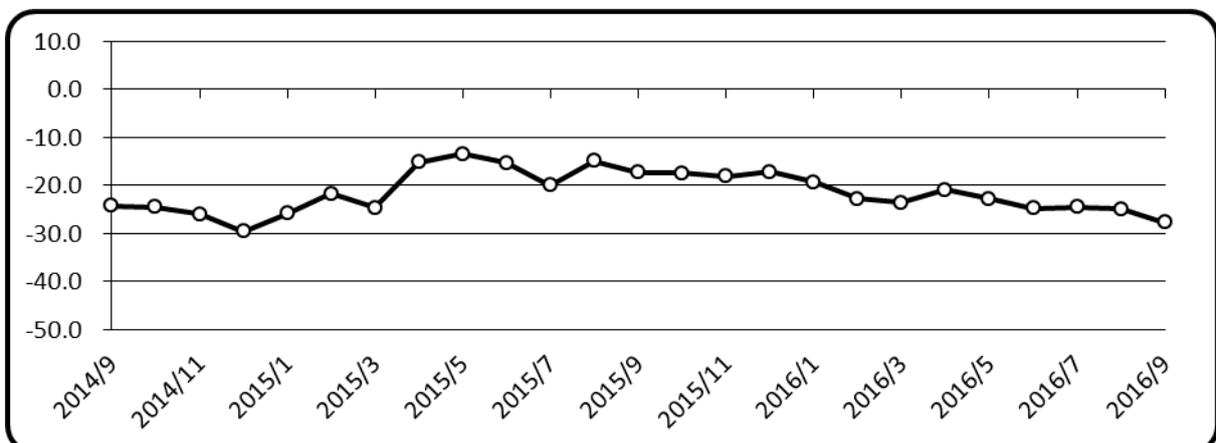
- 業種別では、建設業は、地域によりばらつきがあるものの、公共工事に持ち直しの動きがみられたほか、好調な住宅投資に下支えされ、改善。製造業は、電子部品関連が上向きつつある一方で、工作機械関連の受注減や、原材料の値上がりを受けた食料品製造業が振るわず、悪化。人件費の上昇など人手不足の影響拡大を指摘する声もある。卸売業は、建設需要に牽引された建築材料関連が堅調に推移し、改善するものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり実体はほぼ横ばい。天候不順に伴う農水産物の品不足による売上減少を指摘する声も多い。小売業は、インバウンドを含む高額品販売や秋物衣料の苦戦、不要な支出を控える消費者の動きを指摘する声があり、悪化。ただし、「好転」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。サービス業は、悪化。天候不順の影響により客足が減少したほか、農水産物の仕入価格が上昇し、採算が悪化した飲食業や、旅行客のキャンセルが出た宿泊業が全体を押し下げた。前年のシルバーウィークに比べ休日数が少ないことによる売上減少を指摘する声もある。
- 向こう3カ月（10～12月）の先行き見通しは、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲23.5（今月比+4.3ポイント）と、改善の見込み。ただし、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。
- 産業別に先行き見通しをみると、今月と比べ、全業種で改善の見込み。ただし、いずれの業種も「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。

### 業況DI（前年同月比）の推移

	16年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	▲21.0	▲22.8	▲24.8	▲24.5	▲24.9	▲27.8	▲23.5
建設	▲18.8	▲21.0	▲22.5	▲22.6	▲17.8	▲16.1	▲14.9
製造	▲16.2	▲13.2	▲22.1	▲20.8	▲20.2	▲24.7	▲18.0
卸売	▲31.3	▲25.1	▲30.4	▲27.5	▲33.1	▲27.7	▲24.7
小売	▲32.0	▲36.2	▲39.9	▲37.2	▲38.2	▲43.5	▲38.9
サービス	▲12.7	▲20.4	▲12.5	▲16.9	▲18.9	▲23.8	▲19.9

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しDI

### 《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



### 【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

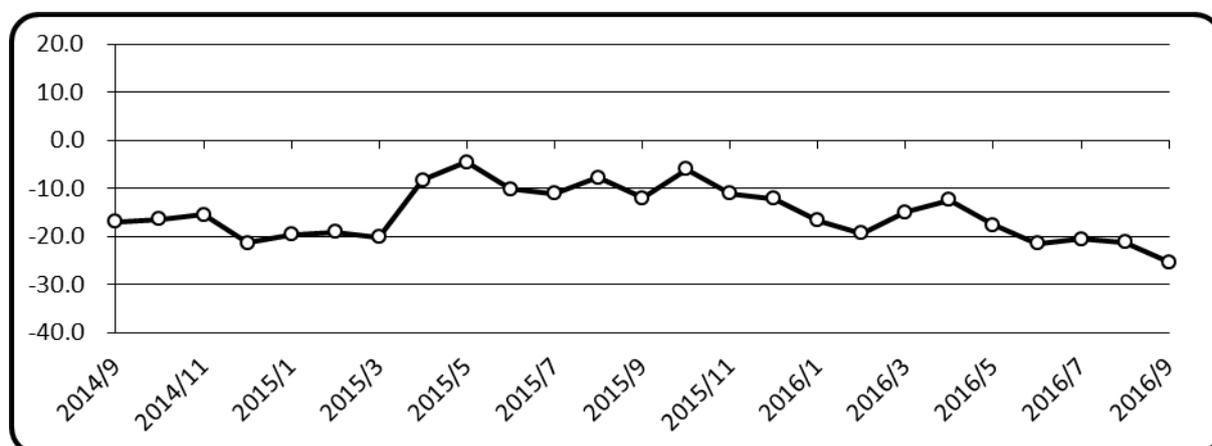
- 売上面では、全産業合計の売上D Iは▲25.3（前月比▲4.1ポイント）と、悪化。産業別にみると、建設業は、地域によりばらつきが残るものの、公共工事に動きがみられたほか、住宅などが好調な民間工事が寄与し、改善。製造業は、海外向けスマートフォンの回復を受け、電子部品の生産が上向きつつある一方で、海外経済減速の影響により需要が鈍かった工作機械関連が下押しし、悪化。卸売業は、建設資材などの動きが堅調だったものの、国内消費の低迷や台風・豪雨などの天候不順に伴う農産物の品不足による売上減少の影響があり、ほぼ横ばい。小売業は、消費者の節約志向が根強く、衣料品や宝飾品など高額品販売が苦戦しており、悪化。サービス業は、天候不順の影響により旅行客のキャンセルが相次いだ宿泊業や、客足が減少した飲食業が大きく全体を押し下げ、悪化。人手不足に伴う受注機会の損失を指摘する声もある。
- 向こう3カ月（10～12月）の先行き見通しは、全産業合計の売上D I（今月比ベース）が▲16.4（今月比+8.9ポイント）と改善の見込み。ただし、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。
- 産業別に先行き見通しをみると、今月と比べ、全業種で改善。ただし、卸売業を除く4業種は「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はいずれも横ばい圏内の動きとなる見込み。

### 売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	16年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	▲12.5	▲17.6	▲21.5	▲20.6	▲21.2	▲25.3	▲16.4
建設	▲16.0	▲17.7	▲16.1	▲23.8	▲19.8	▲17.0	▲8.8
製造	▲4.9	▲5.1	▲15.8	▲17.0	▲18.3	▲19.8	▲9.2
卸売	▲13.0	▲15.9	▲30.4	▲20.6	▲19.3	▲19.2	▲8.4
小売	▲28.7	▲35.9	▲38.5	▲30.8	▲39.4	▲45.3	▲36.1
サービス	▲3.1	▲14.4	▲10.9	▲13.2	▲9.7	▲20.4	▲14.2

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I

### 《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



### 【採算の状況についての判断】

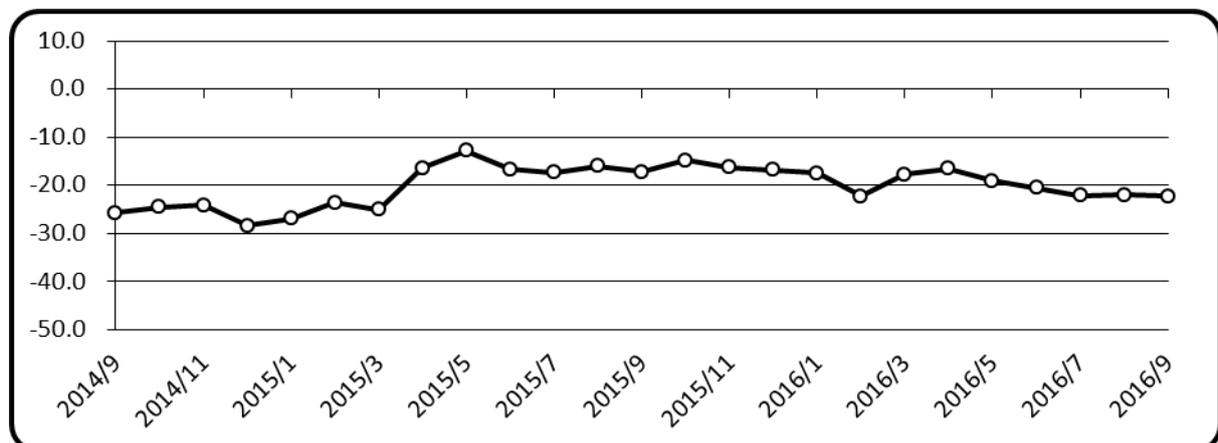
- 採算面では、全産業合計の採算D Iは▲22.2（前月比▲0.1ポイント）と、ほぼ横ばい。産業別にみると、建設業は、建材価格に落ち着きが見られたほか、借入金利の低下の恩恵があるとの声もあり、改善。製造業はほぼ横ばい。円高による原材料価格の下落が採算の改善に寄与したとの声が聞かれる一方、取引先からのコストダウン要請や一部農水産物の出荷量が減少し価格が上昇しているとの声もある。卸売業は、円高による輸入品の仕入価格の下落に加え、建設需要に牽引された建築材料関連の売上が増加し、改善。小売業は、ほぼ横ばい。インバウンド需要は単価の安い化粧品などで引き続き動きがあるものの、人件費の上昇や消費者の低価格志向を指摘する声が広がっている。サービス業は、人手不足が深刻化する中、人材確保・定着のための賃上げが収益改善の足かせとなっている。また、天候不順の影響により、一部農水産物価格が高値となり、飲食業を中心に仕入コストが上昇しているとの声が多く聞かれ、悪化。
- 向こう3カ月（10～12月）の先行き見通しは、全産業合計の採算D I（今月比ベース）が▲18.1（今月比+4.1ポイント）と改善の見込み。ただし、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。
- 産業別に先行き見通しをみると、今月と比べ、小売業でほぼ横ばい。改善を見込むその他の4業種のうち、建設業、製造業、サービス業は、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はいずれも横ばい圏内の動きとなる見込み。

### 採算D I（前年同月比）の推移

	16年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	▲16.6	▲19.0	▲20.6	▲22.2	▲22.1	▲22.2	▲18.1
建設	▲19.2	▲17.3	▲14.0	▲28.8	▲22.8	▲20.9	▲14.2
製造	▲10.6	▲11.4	▲16.7	▲18.6	▲16.3	▲15.4	▲11.1
卸売	▲14.8	▲11.8	▲23.8	▲17.7	▲23.0	▲21.0	▲10.2
小売	▲29.9	▲31.5	▲36.3	▲29.5	▲32.7	▲33.5	▲32.9
サービス	▲9.8	▲20.2	▲12.8	▲17.2	▲17.6	▲20.2	▲17.9

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I

### 《採算D I（全産業・前年同月比）の推移》



(参考)

### 資金繰りD I（前年同月比）の推移

	16年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	▲ 9.1	▲ 12.5	▲ 12.1	▲ 12.1	▲ 13.3	▲ 13.2	▲ 13.5
建設	▲ 6.2	▲ 8.3	▲ 9.8	▲ 8.2	▲ 10.7	▲ 10.4	▲ 10.2
製造	▲ 6.0	▲ 7.1	▲ 9.4	▲ 10.6	▲ 9.1	▲ 9.7	▲ 10.1
卸売	▲ 6.2	▲ 10.0	▲ 4.8	▲ 5.0	▲ 6.0	▲ 5.4	▲ 6.6
小売	▲ 18.0	▲ 23.1	▲ 22.9	▲ 19.9	▲ 23.5	▲ 21.8	▲ 21.6
サービス	▲ 7.5	▲ 12.5	▲ 9.9	▲ 12.4	▲ 13.8	▲ 14.4	▲ 15.1

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の資金繰りD Iは▲13.2と、前月からほぼ横ばい。産業別にみると、小売業で改善、その他の4業種ではほぼ横ばい。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しは、今月と比べ、ほぼ横ばいの見込み。産業別にみると、卸売業で悪化、その他の4業種ではほぼ横ばいとなる見込み。

### 仕入単価D I（前年同月比）の推移

	16年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	▲ 25.5	▲ 22.4	▲ 21.5	▲ 20.8	▲ 17.5	▲ 20.1	▲ 21.0
建設	▲ 20.9	▲ 20.1	▲ 20.2	▲ 20.8	▲ 15.8	▲ 18.3	▲ 19.3
製造	▲ 15.0	▲ 12.5	▲ 13.1	▲ 14.3	▲ 8.3	▲ 8.3	▲ 12.7
卸売	▲ 28.6	▲ 24.0	▲ 24.0	▲ 23.8	▲ 16.9	▲ 24.0	▲ 19.2
小売	▲ 36.3	▲ 27.1	▲ 23.7	▲ 22.9	▲ 21.8	▲ 25.4	▲ 26.1
サービス	▲ 28.1	▲ 29.6	▲ 28.1	▲ 24.5	▲ 24.7	▲ 26.6	▲ 26.7

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の仕入単価D Iは▲20.1と、前月から悪化。産業別にみると、製造業で横ばい、その他の4業種では悪化した。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しは、今月と比べ、ほぼ横ばいの見込み。産業別にみると、建設業、製造業で悪化、卸売業で改善、その他の2業種ではほぼ横ばいとなる見込み。

### 従業員D I（前年同月比）の推移

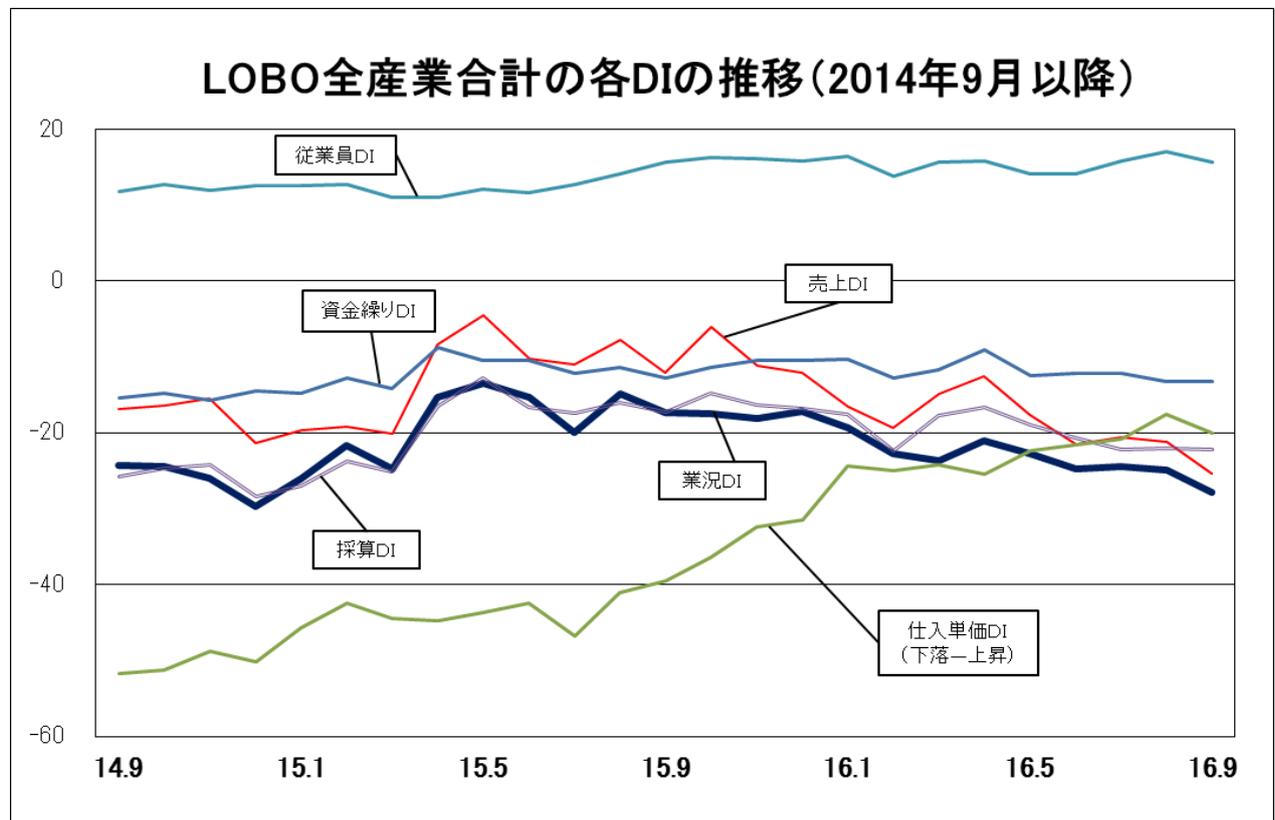
	16年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	15.8	14.1	14.2	15.9	17.1	15.7	17.3
建設	16.4	14.3	13.2	15.2	21.2	17.8	24.8
製造	6.0	4.1	5.5	6.8	6.3	7.5	8.9
卸売	9.9	8.2	7.1	10.6	9.6	9.0	9.6
小売	20.4	18.8	18.7	21.2	23.3	22.6	23.2
サービス	24.0	22.6	22.8	23.3	23.4	19.4	19.1

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の従業員D Iは15.7と、前月から人手不足感が弱まった。産業別にみると、建設業、サービス業で人手不足感が弱まり、製造業で人手不足感が強まった。その他の2業種はほぼ横ばい。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しは、今月と比べ、人手不足感が強まる見込み。産業別にみると、建設業、製造業で人手不足感が強まり、その他の3業種ではほぼ横ばいとなる見込み。

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I



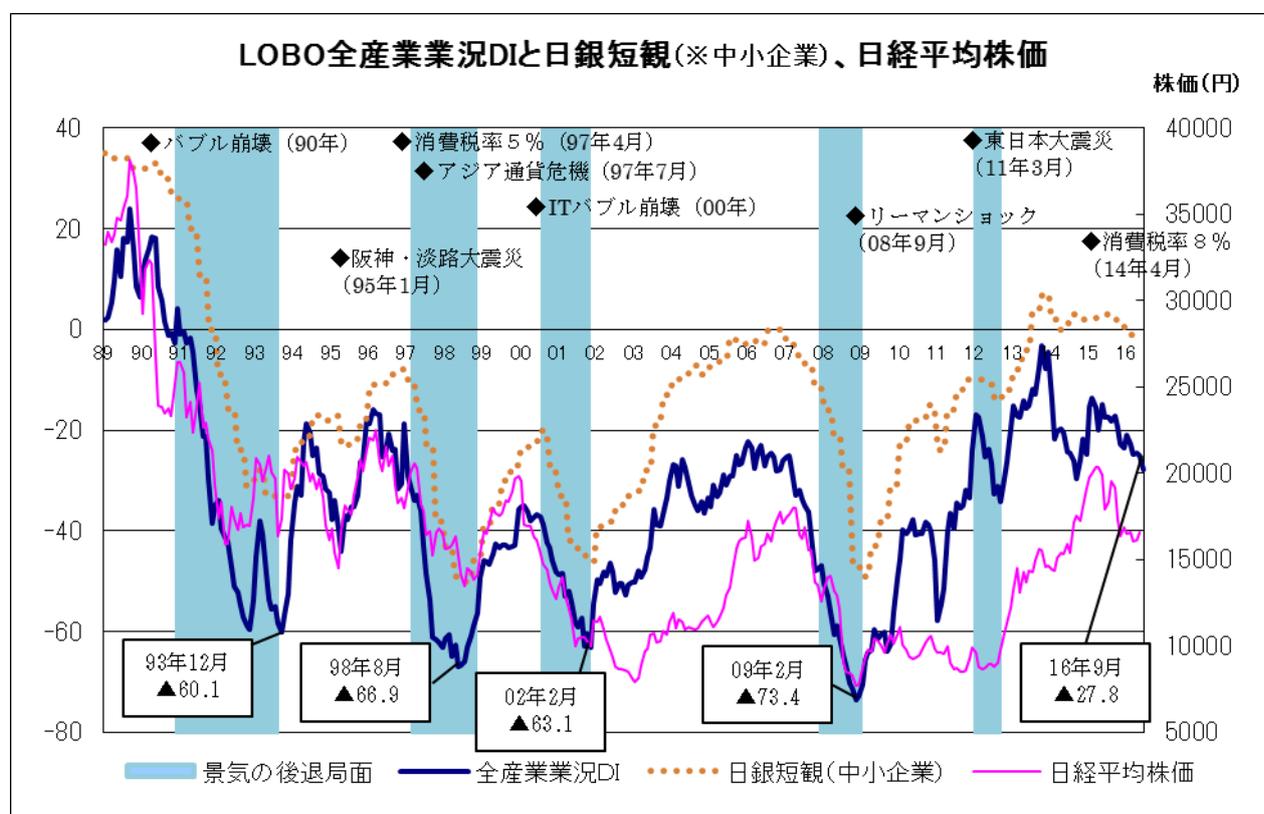
## 【ブロック別概況】

- ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）は、北海道で改善、北陸信越、九州ではほぼ横ばい、その他の6ブロックで悪化。ブロック別の概況は以下のとおり。
- ・ 北海道は、2か月ぶりの改善。公共工事の持ち直しによって建設業の売上が改善したほか、建設資材関連の製造業の業況も改善した。ただし、台風に伴い業務に支障をきたしているとの声が業種問わず聞かれた。
  - ・ 東北は、4か月連続の悪化。個人消費低迷や台風の影響により、小売業、サービス業の売上が伸び悩んだ。また、製造業からは、農産物価格上昇や浸水被害を受けたとの声が聞かれた。
  - ・ 北陸信越は、駅周辺の再開発やアパートなどの貸家を中心に、着工の増加した建設業の売上が改善したが、金属加工機械や食料品を中心に製造業の業況が悪化し、ほぼ横ばい。
  - ・ 関東は、3か月ぶりの悪化。人手不足による受注機会の損失や円高等に伴う取引先からのコストダウン要請により、業況の悪化した製造業に加え、雨の日が多く、客足が鈍かったとの声が聞かれたサービス業の業況も悪化した。
  - ・ 東海は、2か月連続の悪化。外国人観光客による高額品の売上低迷が小売業で見られるほか、北米向け自動車や工作機械関連の輸出減速などから製造業の業況が悪化した。
  - ・ 関西は、2か月連続の悪化。秋物衣料の伸び悩みや、農水産物の品不足により売上減少となった卸売業のほか、インバウンドを中心とした高額品の販売が落ち込んだ小売業が全体を押し下げた。
  - ・ 中国は、3か月ぶりの悪化。公共工事に持ち直しの動きがみられた建設業の業況が改善したものの、前年のシルバーウィークに比べ休日数が少ないことによる売上減少を指摘する声が宿泊業を中心に聞かれ、サービス業が全体の景況感の悪化に寄与した。
  - ・ 四国は、2か月ぶりの悪化。円高や海外経済の減速に伴い、一般機械や繊維関連の製造業で受注量の低迷がみられたほか、宿泊業、飲食業を中心としたサービス業や小売業で個人消費の低迷や人手不足による受注機会の損失を指摘する声が多く聞かれた。
  - ・ 九州は、ほぼ横ばい。熊本地震からの復興が進み、建設業で売上の改善がみられた。他方、「九州ふっこう割」などの復興支援策の効果はまだみられるものの、台風の接近に伴い、客足が伸びなかった小売業、サービス業の業況が悪化した。
- ブロック別の向こう3か月（10～12月）の業況の先行き見通しは、今月と比べ、全ブロックで改善の見込み。ただし、中国を除く8ブロックは改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。経済対策・補正予算による公共工事の増加、個人消費の喚起に期待する声が聞かれる。他方、人手不足の影響拡大、消費低迷や円高、海外経済減速の長期化を懸念する声は多く、中小企業においては、先行きへの慎重な見方が続いている。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

	16年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全 国	▲ 21.0	▲ 22.8	▲ 24.8	▲ 24.5	▲ 24.9	▲ 27.8	▲ 23.5
北 海 道	▲ 25.3	▲ 23.3	▲ 24.3	▲ 22.5	▲ 23.2	▲ 21.0	▲ 20.0
東 北	▲ 22.7	▲ 15.6	▲ 24.5	▲ 26.1	▲ 35.4	▲ 39.8	▲ 32.8
北陸信越	▲ 22.5	▲ 28.0	▲ 27.5	▲ 34.5	▲ 28.6	▲ 28.0	▲ 26.2
関 東	▲ 23.7	▲ 24.7	▲ 26.4	▲ 26.4	▲ 25.6	▲ 27.0	▲ 22.3
東 海	▲ 20.6	▲ 20.7	▲ 22.7	▲ 19.0	▲ 26.6	▲ 31.0	▲ 25.3
関 西	▲ 10.9	▲ 17.0	▲ 23.8	▲ 20.5	▲ 23.1	▲ 31.7	▲ 25.9
中 国	▲ 10.8	▲ 22.9	▲ 24.0	▲ 18.6	▲ 18.5	▲ 21.6	▲ 18.8
四 国	▲ 17.9	▲ 16.5	▲ 14.9	▲ 20.4	▲ 15.5	▲ 22.1	▲ 18.4
九 州	▲ 31.0	▲ 35.2	▲ 32.0	▲ 31.3	▲ 22.6	▲ 22.9	▲ 20.4

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI



※短観(中小企業): 資本金2千万円以上1億円未満の企業が調査対象